

佐伯高校 令和2年 2学期 始業式式辞

みなさんおはようございます。まず休み中こうして大きな事故もなくみなさんと再会できることを嬉しく思います。例年と比べ、短い期間でしたがこの夏休み中少しは休みが取れたでしょうか。お墓参りをした人、普段、読めなかった本を完読した人、徹底的に勉強した人、部活動を集中して行った、これまでの高校生活を振り返り、とこれからの進路目標を確認した人、進路先を見学した人などなど、それぞれの夏があったことと思います。

まだまだ酷暑が続くと長期予報が出ていますが、実は、暦の上では、既に秋になっています。8月7日が「立秋」で、11月7日が「立冬」ですので、今は、秋のはじめということになります。

四季に恵まれた日本の季節の中でも、とりわけ秋は、人間の活動に適した季節であるため、色々な言葉で表現されています。皆さんもよく耳にする「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」・・・また、「実りの秋」という言葉のとおり、学校周辺の田んぼの稲も黄金色に輝き、収穫の時を迎えます。

人間にとっても、秋は、これまで取り組んできたこと、努力してきたことが実を結び、結果となって現れてくる季節です。3年生、2年生、1年生、それぞれに、高校生活の中で、重要な季節を迎えます。節目節目の取組、苦労は必ず報われます。

皆さんは「凡事徹底（ぼんじてってい）」という言葉をご知っていますか？この言葉を最初に生み出したのは、カー用品販売の株式会社イエローハットの創業者である鍵山秀三郎氏だと言われており。「なんでもないような当たり前の事を徹底的に行うこと」です。日々の「当たり前の反復」が、ここ一番、大切な局面で「無意識に発揮」されるのです。みなさんは今後の人生の中で何回も試験を受けますが、学科試験、実技試験のみならず、「面接試験」を経験する人がほとんどではないでしょうか。私は、「日々面接」だと考えています。必ず、その人の「日々」「日常」が面接試験に出ます。裏返せば、面接官は、その人の「日々」「日常」を必死に見つけようとしているということなのです。

一日一日を大切に、目指す人生をしっかりと歩んでいくために、授業など毎日の確かな取組をこれまで以上に「意識化」して行ってください。

さて、二学期は、本校ではオープンスクールや体育祭そして修学旅行などと大きな行事が続きますね。それぞれみなさんが持っている力を発揮し、佐伯高校の良さである、家庭的な雰囲気、全員主役という精神を発揮していただきたいとおもいます。

では、新学期を迎えるに当たり、みなさんにはしっかりと自分の未来の種を蒔き、黄金の稲を育てていくという実りある学期となることを期待しています。